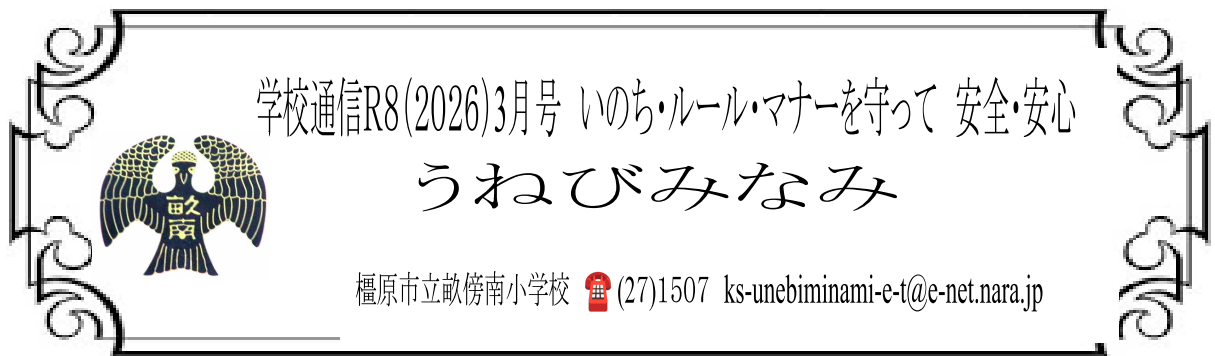




待てば来る三月も又幸せも 川口咲子

3月を迎え、卒業式や修了式も近づいてきました。一年間のまとめをして、次のステップへと踏み出す大切な季節です。卒業や進級を目前にし、子どもたちはいろいろな分野で活躍しています。

平和集会

6年生が主導して平和集会が行われました。戦争の悲惨さと平和への強い願いを、6年生は堂々とした態度とはっきりとした口調で全校児童に伝え、その真剣なメッセージに下級生たちは深く引き込まれていました。

体験したことや感じたことを、より詳しく実生活と関連付けて深く理解し、表現したり、伝えたりすることで、初めて知識として定着します。「全校児童に自分たちの思いを一生懸命に伝える」という学習活動は、まさに深い学びに繋がるものです。

原爆ドームの前で被爆ピアノの伴奏に合わせて歌った「ヒロシマの有る国で」を思い起こすかのように、心を込めて歌い上げていました。



(リハーサルの様子)

かの南の国では 大国がのしかかり 寡黙な少年らが 重い銃に身をやく
やせた母の胸に 乳飲み子が泣き叫び

裸足で裸のまま 逃げまどう子どもたち

故国の土をふむことも 家族と暮らすことも

許されない戦争がなぜ今も起こる

ヒロシマの有る国でしなければならないことは

ともるいくさの火種を消すことだろう

1983年に作詞・作曲されたこの歌を、2026年の今、なお、残酷な歌詞が現実の出来事として心に響きます。世界の平和があってこそ、日本の平和が保たれるという必要性を強く感じさせられました。

平和の大切さを伝えるだけでなく、下学年の児童たちは「6年生になったらあんなにすごいことができるんだ」と、上級生への尊敬の気持ちを募らせたようです。

昔遊び

一年生が、地域の方々に先生に昔遊びを体験しました。竹馬、独楽回し、お手玉、おはじき、かるた、ビー玉落とし、ケンケンパーといった遊びを通して、子どもたちは地域の方々との交流を深め、終始笑顔で楽しんでいました。

地域の方々は、日頃から公民館や見守り活動でお世話になっていることもあり、子どもたちも親しみを持って接することができました。

物を触ったり、投げたり、紐を巻いたりといった昔遊びの動作は、手先だけでなく、全身の筋力や力加減を学ぶ貴重な機会となりました。いつもとは違う遊びを知る、大変有意義な時間となりました。



(手作りけんけんぱー)



(お礼とご挨拶)

木育の取り組み

檀原市では、小学4年生を対象に、社会科の「森林教育」と図画工作科を横断した「木育」授業を実施しています。

社会科の学習では、郷土の偉人である吉野の山林王、土倉庄三郎（どぐらしょうざぶろう）の功績を学び、吉野杉や檜（ひのき）の特性、そして森林資源の重要性について理解を深めます。

その後、子どもたちは本物の吉野杉に触れ、その独特の香りを肌で感じながら、鋸（のこぎり）や釘を使い、素材の良さを活かした作品づくりに挑戦しました。現在、廊下には、児童たちの自由な発想によるユニークで、杉ならではの質感が活きた活気あふれる作品が展示されています。



6年生を送る会

日頃お世話になった6年生への感謝の気持ちを伝えるため、「6年生を送る会」を5年生が中心となって開催しました。6年生と共に縦割りグループで、まるでテーマパークのような趣向を凝らした手作りゲームを楽しみました。参加した6年生からは、「こんなゲームどこかで見たことある！」「SASUKEみたいだね。5年生がすごい！」といった驚きや感嘆の声があがりました。

また、各学年が心を込めて、6年生への感謝の気持ちを呼びかけでしっかりと伝えました。特に5年生は、演奏だけでなく、ユーモアあふれるダジャレも披露し、会を盛り上げました。

学校をしっかりとリードし、みんなを優しく守ってくれた6年生が卒業します。会を通して、在校生、特に新リーダーとなる5年生からは、「次は私たちが頑張る！」という力強い決意が感じられました。

